

第31期 日野市立図書館協議会 令和6年度第1回 議事要録

【日時】令和6年5月22日(水) 10:00~12:00

【場所】多摩平交流センター2階 集会室3-3

【出席者】○図書館協議会委員

田代 守委員、山口 洋委員、栗澤 稚富美委員、元木 千恵委員、遠藤 直幸委員、
畠山 秀保委員、千葉 智弘委員、馬場 章夫委員、

○教育委員会

田中 洋平生涯学習担当参事

【事務局】奥住 大輔館長、関戸 寿憲副館長、谷 剛毅副主幹、星 まゆみ係長

【配布資料】

1. 第31期日野市立図書館協議会委員名簿
2. 令和5年度日野市立図書館の運営の状況に関する評価書(令和4年度事業)
3. 日野市立図書館のサービス実績(昭和40年度~令和4年度)
4. 令和5年度事務報告(図書館協議会部分抜粋)
5. 令和5年度図書館統計(速報値)
6. ひの電子図書館サービスについて
7. 職員配置表
8. 第4次日野市立図書館基本計画(※)
9. 第4次子ども読書活動推進計画(※)
10. 図書館法(抜粋)・図書館協議会設置条例・図書館協議会運営規則
11. 令和6年度図書館主要事業について
12. 令和6年度日野市予算書(図書館部分 歳出)
13. 日野市立図書館利用案内
14. ひろば 2024年3月号~5月号、イベントチラシ(中学生と作家、子ども読書活動推進、ヤングスタッフ)

【次第・要点・意見・質問等】

1. 開会の辞
2. 任命書交付
3. 担当参事あいさつ
4. 各委員の自己紹介・職員紹介
5. 委員長・副委員長選出
互選により、委員長:田代 守委員、副委員長:山口 洋委員
6. 委員長・副委員長あいさつ
7. 協議事項
 - ① 令和6年度 図書館の運営状況に関する評価について……今後の流れの概要を説明
 - 評価書案をメールで送り、質問を受け付け後、回答をお送りする。
 - 次回(7月)の協議会において主要事業については担当職員より説明をする。
 - その後、委員のみなさまに評価をいただき、8月上旬までに事務局へ返送。

- 事務局で取りまとめ、全体案を見ていただき 8 月中に最終修正をした上で、教育長決裁を経て、9 月の定例教育委員会で報告して公表する。
- コロナの影響など、学校図書館の現状はどうか？→当初は、授業や休み時間での図書館利用には苦慮したが、だんだんと以前のような利用に近いかたちに戻りつつある→本が好きになるような工夫をしている一方で、蔵書に関しては課題を抱えている状態。

② ひの電子図書館サービスについて(資料6)

- 7月2日より電子図書館サービス(一般向け)が開始される。約一か月後の開始に向け、現在鋭意準備を進めているところ。
- 電子図書館サービス(学校向け)については、2学期を目指して準備をしていく。学校向けでは、児童生徒が使用している一人一台の学習用端末を活用し、電子書籍を使用できるようになる。
- タイトル数及び内訳は以下のとおりを予定している。

サービス開始時

	タイトル数	備考
買い切りパック	500	「青空文庫厳選500点」
年額パック	259	「声の本・藤色」
読み放題パック(23 か月)	208	調べもの中心
読み放題パック(12 か月)	336	読みもの・絵本中心
一般買い切り	100	
児童買い切り	200	
現時点での合計	1,603	

- この他に一般や児童のライセンス(利用期間・利用回数)限定型のコンテンツを選書中。
- 年度末までに、2,500~3,000 タイトルを目指す。
- 開始までの周知等は以下のとおり。

【令和 6 年 4 月】

図書館 HP で周知(4/30)…電子図書館が 7/2 に始まる旨のお知らせ

【令和 6 年 5 月】

図書館報「ひろば」5 月号…図書館登録や登録情報更新の呼びかけ

全図書館内にちらしの掲示(下旬予定)

登録・更新キャンペーン(5 月下旬～予定)…ちらしの掲示と、QR コード記載の葉やシールを配布(現時点で、登録者の生年月日等の情報が正確でない方が登録者の約1割程度存在する。)

【令和 6 年 6 月】

図書館報「ひろば」6 月号…電子図書館のイメージ(トップ画面)やコーナー(読み放題、雑誌など)の紹介

ひのつぎょういく第 146 号…電子図書館スタートのお知らせ

プレスリリース(中旬以降)…広報ひの 7 月号と同じような内容の予定(検討中)

【令和 6 年 7 月】

広報ひの 7 月号(裏表紙)…サービススタートと簡単な利用案内

市 LINE…広報ひの 7 月号と同じ内容の予定

- 事業費については、資料のとおり
※9月以降に、コンテンツの充実に向け拡充していく予定。補正対応(予定)
- 歳入は、以下のとおり
デジタル田園都市国家構想補助金(1/2)

- 今後の検討事項
電子図書館サービスは、どの自治体でも同様にライセンスの継続的な費用等のランニングコストが発生する。中には、中止した自治体もある。その中でも、立川市の取り組み事例(企業版ふるさと納税)が参考となる。日野市としても、他市を含め成功事例等を研究しながら、活用できる事例を検討していく予定。

③ 協議事項に関する意見・質問等

- 運営評価に関して、過去の評価書は資料として見る事が可能か。
→図書館ホームページに平成21年度のものから PDF で掲載されている。
- デジタル田園都市国家構想補助金は初年度だけなのか。
→導入年度のみ。
- 電子図書館サービスでは、様々な区分での選書があるので、悩ましいところ。選書は司書がしているのか
→職員(司書)が、本の分類ごとに分担して選書している。
- 学校で絵本等の読み聞かせボランティアを行っているが、今は OHP を使用して本をスクリーン等に投影して皆で見ているのですが、電子図書館を導入した場合どのようなになるのか。
→紙を投影する手間はなくなる。
- 電子書籍導入後、学校での調べもの学習の際には、一つのタイトルの本を複数の学校や複数のクラスで見ることができるのか。
→本のライセンス区分により異なるが、読み放題パックの本であれば同時に複数の方が見ることが可能。
→電子図書館サービスでは、立川市の事例も踏まえて学校での活用に重点を置く形になる予定。
- 学校では、本の更新が進んでいない面があるので、電子図書館サービスは調べ学習に有効と考えている。
- 日々、情報が更新されている中で、調べ学習材料として知りたい情報が最新の状況で見られるのか。更新頻度等に決まりはあるのか。
→電子書籍であっても、新刊がでない限りは本の中の情報は更新されない。頻度としては、基本 23 か月。選書は職員(司書)が行う。
- 電子図書館サービスの導入経緯を確認したい。
→背景としては、コロナ禍であったこと、補助金があったことがあげられる。また、近隣市の立川市の導入の成功事例等もあり、市の方針として導入を決めたこと

ということが一番大きな理由になる。また、学校図書館において、同一タイトルの本を複数の学校で持つなど、コスト面においても改善が図れることがある。

- 電子図書館サービスでは、著作権はどのようになっているのか確認したい。実態に法律等が追いついてない現状はあるかも知れないが。例えば、図書館の中だと著作権法によって館内コピーが可能。具体的な扱いがあれば教えてほしい。電子化されていると、例えば、PC の機能でスクリーンショット等の機能を使用することも出来てしまうと思う。個人で使用する分では問題はないのかも知れないが、ネットやウェブに使用するなどすれば問題が発生するかもしれない。特に絵本の表紙の制限が非常に厳しい。運用の中で、様々な問題や課題が出るかと思うので、適宜対応してほしい。

→システムの中で基本的には制限(専用ビューアでのみ閲覧)がある。ただし、ダウンロード可能なものもあるので、その際には PDF ファイルとしてダウンロードが可能。

- 電子図書館サービスの貸出・返却等について教えてほしい。
→貸出期間は 2 週間、2冊まで。予約も2冊まで。返却は期間に達すると自動的に返却となる。また、予約についても、メールや電話での連絡はできない。例えば、予約していた本が読める状態になっても、気づかずにいると期限に達してしまい返却されてしまうことになるので、注意が必要。なお、利用できるのは在住・在勤・在学のみ。

8. 報告事項

① 図書館の概要について(資料3)(資料5)(資料7)※令和4年度末実績

- 「図書館のサービス実績」について、資料に沿って説明(資料3)
 - ・全図書館の蔵書数 835,120 冊
 - ・登録者(成人)26,767 人 登録率 16.44%
 - ・登録者(児童) 3,863 人 登録率 15.81%※上記数値は、コロナの影響によりR2 年度から下がっているが、戻りつつある。
- 令和5年度図書館統計(速報値)について(資料5)
- 職員配置について(資料7)※令和6年4月1日現在の組織・職員数
職員30人(司書23人)、再任用8人(司書 3 人)

② 図書館協議会について(資料10)

- ・図書館法・設置条例・運営規則 参照
- ※傍聴制度については、生涯学習部全体として実施に向け精査中。

③ 令和6年度図書館主要事業について(資料11)

- 図書館図書の貸出システム更新
現在利用しているシステムから新システムの切り替えを、当初は令和六年度予算の中で実施する予定であったが、財政上の理由から延伸され、令和七年7月に向けて準備を進めている。令和六年7月前後にプロポーザルを実施する予定。五年間債務負担行為となり、総額の見込みは約 3 億 5000 万円。
- 電子図書館サービスの導入

現状の図書館の開館時間の中では利用が難しい方等に対し、図書館をより知っていただき、活用していただく機会の創出や、学校図書の実、コスト削減など、新たに紙とは別に電子書籍のサービスをツールとして増やし、サービスを充実する。

➤ 中央図書館文化財登録の準備

中央図書館が開館 50 周年を迎えたなかで、ふるさと文化財課との連携事業として、国の登録有形文化財の登録を目指していきます。今後は、保存活用計画策定委員会を立ち上げて、登録に向けた準備を開始します。この委員会の方には図書館も当然入り、共有をしつつ進めていく。

④ 令和6年度図書館予算について(資料 12)

➤ 中央図書館が図書館土地取得経費について

区画整理事業において、図書館の周辺の土地(主に駐車場)について、土地開発公社の保留地を買い戻す事業。当初令和4年から6年までの3か年の予定であったが、市の財政上の理由から延伸となったもの。

9. その他

① 会議録の作成について

議事要録を作成しホームページにて公開

② 開催通知等の連絡方法について

主にメールにて通知

③ 次回の日程について

提示した候補日に対して参加可能な日を募る。決定後、全員に通知。

④ その他(資料14)

➤ レファレンス室内の利用状況等について

資料調べ5席、電源利用5席、自習5席の計15席で、利用状況の数値をとる。

令和5年4月実績(利用者)

296名

令和6年4月実績(利用者)

564名

令和5年5月実績(利用者)

252名

令和6年5月20日時点実績(利用者)

281名

➤ ひろば 2024年3月号~5月号、イベントチラシ(中学生と作家、子ども読書活動推進、ヤングスタッフ)について説明

⑤ その他に関する意見・質問等

➤ 情報提供として、「みんなの図書館」という図書館問題研究会が発行している雑誌の 3 月号、副委員長の山口さんが寄稿していますので、機会がありましたら、皆さんも見ただければと思います。

➤ 公共施設はやっぱ使ってもらってなんぼだと思う。しっかりとその時代のニーズに合わせた形で努力して行ってほしい。電子図書館サービスも、今まで図書館に足を運ばなかった人達が身近になるような機会になるのではないかと感じる。同時に、使う側のリテラシーとかモラルということも並行してお伝えして行くということはすごく大事だと思う。

- 昔は、ひまわり号のあるところにみんなが集まってくる形だった。これからは、人々が集まるところにひまわり号が行くスタンスは良いと思う。5月12日に行われた新選組まつりの時も、多くの人に来ていてとても良い雰囲気だったという感想を伝え聞いています。
- ヤングスタッフについて、現在の活動を見るとどうしてもお手伝い的な印象が強い。子どもたちが主体となって、子どもの声を届けられるような進め方ができればよいと思う。例えば図書館だけで難しいなら児童館と手を組む等、子どもの声を反映して行くような活動になっていくと面白いと思う。
- 時代に合わせて少しずつ変わっていくということは理解できる。そのために今までやっていた仕組みを少しずつ変えることも有るが、一方で、図書館には奥深さもあるので、使いやすさをきっかけにしてより図書館を知ってもらい、ディープな図書館ユーザーになっていってもらえればと思う。ひまわり号は市民の中に飛び込んで、日野市の図書館が発展してきた訳ですから、その精神を大切に図書館がどんどん外へ出ていく、そんな風に変換してくれるといいかなと思います。なかなかお金も人も大変だと思いますが、是非頑張ってください。
- 日野市立図書館の基本理念、基本方針を抑えたこれからの図書館サービスを展開していただきたい。単なる数値を目指すことに陥ることの無いよう総合知で検証を進めて欲しい。